

肝臓のなかま

第144号 2023年7月
 日本肝臓病患者団体協議会 (JHC)
 〒161-0033 東京都新宿区下落合 4-27-5-201
 TEL.03-5982-2150 FAX.03-5982-2151
 振替 00160-0-399187
 口座名 日本肝臓病患者団体協議会
<http://nikkankyou.net/>

第12回世界・日本肝炎デーフォーラム開催

日時 2023年7月28日(日) 13:00~15:30

会場 東京YWCA会館 カフマンホール

千代田区神田駿河台 1-8-11 JR 御茶ノ水駅御茶ノ水橋口徒歩4分

【プログラム】

第1部 開会式 主催者、来賓挨拶

第2部 医療講演会 ・ なんでも質問会

「ウイルス性肝炎について考える

～B型肝炎の最新情報とC型肝炎 SVR 後に注意すること～」

講師 八橋 弘先生

(長崎医療センター名誉院長、長崎県病院企業団企業長)

主催 日本肝臓病患者団体協議会

後援 厚生労働省、一般社団法人日本肝臓学会(予定)

もくじ

- ・「第12回世界・日本肝炎デーフォーラム」開催のお知らせ 1
- ・アジア太平洋肝臓学会 (APASL) 2024 Kyoto に参加して 3
- ・自己免疫性肝疾患 患者実態調査報告 6
- ・編集後記 8

「世界の肝炎患者と手を携え、すべての 肝炎患者に社会的支援を！」

世界保健機構（WHO）は2010年の総会で、毎年7月28日を世界肝炎デーに設定し、ウイルス性肝炎の感染・蔓延防止と患者・感染者への差別・偏見の解消などを目的として、世界的レベルの啓発活動などを実施するよう呼びかけました。厚生労働省も2011年、世界に合わせて7月28日を日本における肝炎デーと定めて啓発活動を実施しています。

日本肝臓病患者団体協議会は「世界・日本肝炎デー」に呼応して国内の患者団体や支援組織などに呼びかけ、今年も対面で「第12回世界・日本肝炎デーフォーラム」を開催します。

昨年奈良で開催された「第59回日本肝臓学会総会」で発表された「奈良宣言2023（ALT30 越えでかかりつけ医を受診しましょう）」以来、一般の方への脂肪肝を中心とした肝臓病発症のリスク啓発が奏功しました。NHKの「トリセツ」では脂肪肝を題材にその影響もあってかウイルス性肝炎の影がやや薄らいでいるように感じます。B型肝炎のウイルスを排除できる薬剤はまだこれからですし、C型肝炎SVR後のがん発症、再発は見逃すことはできません。そこで、今年の肝炎デーフォーラムでは「ウイルス性肝炎について考える」をテーマに残されたウイルス性肝炎の問題を八橋弘先生にお話しいただきます。

講演後はなるべくたくさんの方の皆さんの質問、疑問にお答えいただきますのでぜひ、ご参加ください。

例年、関東地方の参加が中心の集まりになっていますが、遠方の各地域患者会からの参加を大いに歓迎します。

◆ウイルス性肝炎について考える◆

～B型肝炎の最新情報とC型肝炎SVR後に注意すること～

進行
講師 米澤 敦子(日本肝臓病患者団体協議会)
八橋 弘 先生
(長崎医療センター名誉院長、長崎県病院企業団企業長)

アジア太平洋肝臓学会(APASL)2024 Kyotoに参加して

米澤敦子

3月27日(水)から31日(日)まで京都の国立京都国際会館で「アジア太平洋肝臓学会(APASL)2024 Kyoto」が開催されました。27日9:00~に行われた「Thinking Big: Hepatitis B and C Elimination in Asia (アジアにおけるB型およびC型肝炎の撲滅を考える)」は、APASLウイルス撲滅タスクフォースのジョージ・ラウ教授(香港)と、世界肝炎撲滅連合のディレクターであるジョン・W・ウォード博士が議長を務めた特別セッションで、日本からは広島大学医系科学研究科 疫学・疾病制御学教授の田中純子先生、国立感染症研究所所長の脇田隆宇先生が発表されました。私は国内のウイルス性肝炎患者の実態とウイルスを排除することの重要性について述べ、アジアの様々な国の医療者や多くの関係者の方々に日本の肝炎患者の現状を知っていただくことができました。

また30日(土)12:30~行われたWHA(World Hepatitis Alliance 世界肝炎同盟)主催の「NO hep medical visionary session」(肝炎にNo、医学的なビジョナリーセッション)では、患者会の歴史や患者の医療環境改善に貢献した50年にわたる活動について発表しました。アジアでは肝炎の患者会が存在しない国も多く、今後は患者会を作ることから協力できたらと感じました。

31日(日)には市民公開講座が開催されました。会長の椎名先生より患者が企画と運営を任されたイベントで、1年近く前から何度も打ち合わせを重ね、紆余曲折を経てようやく当日を迎えることができました。当日は100名近くの方が聴講、5名の先生方に日頃聞けないお話をいただき大盛況のうちに無事終わることができました。(市民公開講座の内容については「東京肝臓のひろば」260号(6月号)に掲載していますので、お手元にない方はお送りいたします。)

以下は30日に開催された「NO hep medical visionary session」の発表内容です。